

牛牧小だより

October 20th. 2021 No.7
その1

前期が終わり、後期を迎えました

前期終業式での児童代表の話<抜粋>

学しゅうのたからものは、じぶんの考えをかならずもち、はっぴょうすることです。それから、わからないなかまや、こまっているなかまに教えてあげるなどしてたすけ合いました。生かつでのたからものは、つきもくひょうのとりにくみとそうじです。つきもくひょうでは、ぜんいんがたっせいできるように、クラスの子たちとこえをかけ合いながら、とりにくむことができました。そうじでは、きょうしつにひとつもゴミがのこらないように、同じそうじばしょのなかまときょうかしながら、もくもくそうじにとりにくむことができました。……<2年生児童代表>

<略>最初はじゅ業に関係ないことをしゃべっている子に大きな声で強く注意をしていましたが、それだとあまり仲間はこたえてくれませんでした。それでもあきらめずに、どうしたらみんなが聞いてくれるかを家で考えました。家の人や、先生、友達にも相談しました。学級では、班長さんと協力して学級のみんなに声をかけたり、学級で話し合いもしました。すると、注意されるがわの立場になって声をかける必要があることに気がつきました。仲間にやさしく注意をできるようになり、大変でしたが、少しずつ協力してくれる仲間がふえて、とてもうれしかったです。……<4年生児童代表>

10月8日(金)の5時間目に前期の終業式をテレビ放送で行いました。上の文は児童代表の話の抜粋です。自分ができるようになることはもちろんですが、仲間と共に取り組こうとする子ども達の姿が垣間見えて、すっかり「やりぬき賞」が定着してきたことを感じます。

